



★小学生、中学生のお子さんをお持ちの親御さんに★

「絵本」の意味を国語辞典で調べると『子ども向けの、絵を主にした本』（三省堂国語辞典第七版）とあります。イメージとしては、**字が読めない幼い子どものために、絵が沢山描かれている本**、といったところでしょうか。それはもちろんそうなのですが、絵本を“幼い子どもが楽しむもの”と決めつけてしまうのは勿体ない！！「あなたは小学生だから、字が読めるのだから**自分で**読みなさいね。」と手渡してしまうなんて、あー勿体ない！！今回は、論理的思考ができるようになる**小学校高学年以上のお子さん**と親子で一緒に読んで欲しい絵本をご紹介します。

その年代の子どもとの日常会話は、「ごはんよ〜」「行ってらっしゃい」「忘れ物ない？」「早く〇〇しなさい！」「今日は学校（部活）どうだった？」「テストどうだった？」などの、**決まった挨拶、確認、命令、質問（尋問？笑）**が殆どではないかしら。幼い頃と違い、親からあれこれ言われたり聞かれたりするのをうっとおしく感じるお年頃。でも、親として日常会話以外に伝えたいことはまだまだある！でも聞いてくれない！（苦笑）そんな時に絵本はかなりオススメですよ。絵本はたった数分、十数分の中に、人生について、命や生きることについて、平和について、喜びや感動についてなどの人として大切なことが詰まっていて、まるで2時間ドラマでも見たかのような満足感と深い感動に出会えることもあるの。そしてむしろ、成長したこの時期の子どもとだから一緒に楽しめる、共感できる絵本があるんです。そこに**親の声が加わることで、大切なこと、伝えたいことは「作者のことば」ではなく「親のことば」「親の気持ち」として、決して押し付けにはならず子どもに伝わります。**だから絵本を手渡すだけなんて勿体ないでしょ。“読みなさいよ！”の無言の命令“みたいだしね（笑）”。自分で読みたいおさんとも、出来れば一緒に読んで欲しいの。この時期の子どもは己を客観的に見つめ、ボクは（ワタシは）何でも出来る！の幼い頃に比べ、当然のことながら自己肯定感は低下します。自分の声で、ことばで、我が子の人生を応援したいと思いませんか！「この本、なんだか良さそうでさ〜、一緒に読まない？」「お母さんが読みたい本があるんだけど、ちょっと聞いてよ」などと誘い、学校の読書週間や夏休みに、是非親子で一緒に読み合ってみてはいかがでしょうか？私も息子（小学5年生）と沢山の絵本を読み合いますよ！

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

「あの人たちのことを、覚えていなければ」

広島原爆投下の後に生き残った若者が、様々な想いの中で思わず口にした一言。自分が生き残ったことに罪悪感すら抱いてしまった彼は「あの日を知らない人たちが、私たちの記憶を自分のものとして分かち持てるように」と、生きる事が叶わなかった人たちのことを強く記憶に刻み込みます。これは、今を生きる私たち全てに響く言葉だと思います。3編の記憶の物語が収められた一冊を、この夏ぜひ手に取ってみてください。

『八月の光』 朽木祥／著 偕成社

（青山）

フレーズ
&
センテンス

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

王朝ガールズトーク×イラストエッセイ 『超訳枕草子』 マーブルトロン

学校で勉強した『枕草子』。「春はあけぼの」の一文を暗記した（させられた？）人も多いのではないのでしょうか？ ついつい学生時代に感じたまま固いイメージが残っているものですが、今回紹介する『超訳枕草子』ではそんなイメージを払拭してくれます。現代語訳だけでなく、おしゃれなイラストと一緒に描かれる『枕草子』は現代エッセイストたちの最新刊の雰囲気。手紙をメール、女房をOLと言い換える訳者の言葉のセンスのおかげですんなりと内容を心に受け入れられる一冊になっています。（大塚）

かける ×本精読



原作本から入ってよし、映画から入ってもよし。

第17回 蝸ノ記 ヒグラシノキ

★原作「蝸ノ記」著者：葉室麟 祥伝社

★映画「蝸ノ記」主演：役所広司 岡田准一 堀北真希 原田美枝子

城内で刃傷沙汰を起こしてしまった主人公檀野庄三郎。本来であれば切腹のところ、7年前に不義密通事件を起こし、家譜編纂（かぶへんさん）と10年後の切腹を命じられた戸田秋谷のもとへ監視役として遣わされます。家譜編纂に際して知り得た情報を持って秋谷が逃亡することを恐れたための藩命でした。庄三郎は、最初は主命のため、そして自分の命のためにこの役目を受け入れるのですが、秋谷の人柄に触れ、戸田家の人々と生活を共にするうちに、次第に秋谷を救いたいと考えるようになります。しかし、秋谷の望みはまったく違ったものでした。

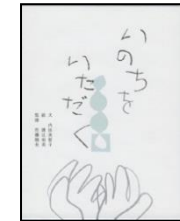
秋谷の人柄は、「清廉潔白」の一言に尽きます。自分の中に曲がることのない一本の芯を持っていると、人はここまで強くなることができるのか、と改めて感じました。映画でも原作の雰囲気損なわれることなく、大変美しい映像を楽しむことができます。原作も映画も、両方楽しんでいただきたい一作です。 次回は『カラフル』です。お楽しみに！（丸山）



★今月の絵本★ 小学校高学年以上のお子さんと親子で一緒に読んで欲しい絵本

『いのちをいただく』

内田美智子/作
諸江和美/絵
佐藤剛史/監修
(西日本新聞社)



『せかいでいちばんつよい国』

デビッド・マッキー/作
なかがわちひろ/訳
(光村教育図書)



『ぼくのニセモノをつくるには』

ヨシタケシンスケ/作
(ブロンズ新社)



『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

くさばよしみ/編
中川学/絵 (汐文社)

